

個人投資家向け

会社説明資料

2024年9月6日(金)

ダイト株式会社

(東証プライム市場 証券コード 4577)



スピーカー 自己紹介

代表取締役社長

まつもり ひろし

松森 浩士

生年月日 1956年7月24日

略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況:

- | | |
|----------|---|
| 2013年 4月 | ファイザー株式会社 取締役執行役員
エスタブリッシュ医薬品事業
アジアパシフィック地域戦略担当 バイスプレジデント |
| 2013年12月 | SBIバイオテック株式会社 代表取締役社長 |
| 2016年 4月 | テバ製薬株式会社(現 武田テバファーマ株式会社) CEO兼社長 |
| 2023年 8月 | 当社 取締役副社長 経営戦略担当 兼 管理本部長 就任 |
| 2024年 1月 | 当社 代表取締役副社長 経営戦略担当 兼 管理本部長 就任 |
| 2024年 8月 | 当社 代表取締役社長 就任 |



目次

I.	会社概要	p. 4
II.	タイトの強みと成長の軌跡	p. 10
III.	新中期経営計画「DTP2027」	p. 21
IV.	FY2024 決算詳細、FY2025 業績予想	p. 42
Appendix.	その他参考資料	p. 48

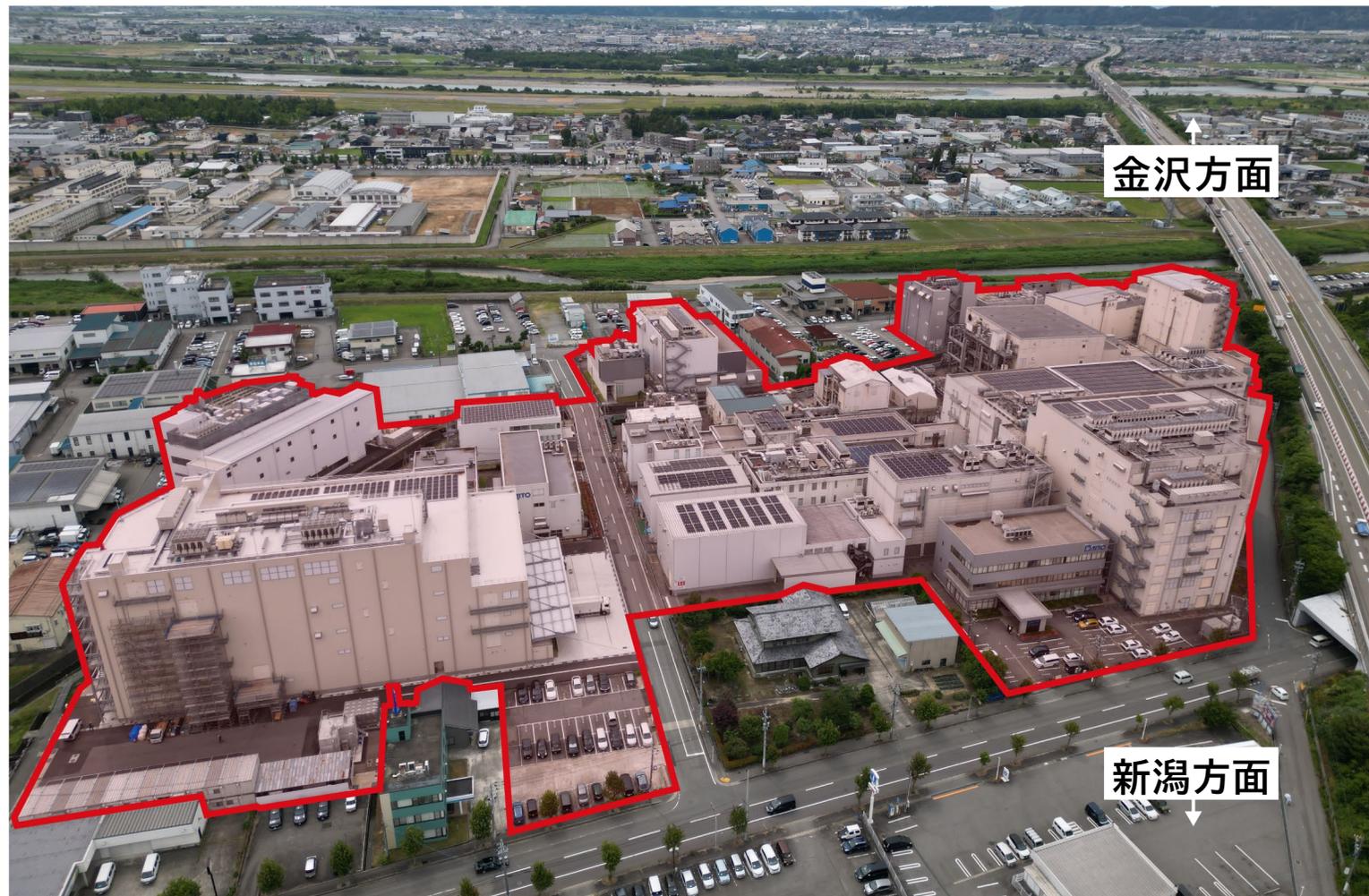
I. 会社概要

ダイト本社 全景

本社・本社工場・研究所



工場敷地面積:約35,000㎡



立地条件

富山IC 車で約3分

富山きときと空港 車で約8分

富山駅 車で約25分

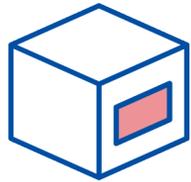
「原薬」「製剤」とは

原薬とは

医薬品を製造するための原材料であり、
一般には、**医薬品の中に含まれる有効成分のこと**



医薬品の製剤のなかの
効き目の成分 = 原薬



お薬の説明

【効能・効果】
○○○○○○○○○○

【用法・容量】
○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○

【成分・分量】
○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○

原薬はここに
表記されています

製剤とは

原薬に乳糖やでんぷん等の添加剤を加え、
錠剤や顆粒剤などに加工された医薬品のこと。



原薬

化学プラントのような
反応設備で製造

原薬

異物混入対策が求められるため、
包装工程など下流工程は
クリーンルームで実施



製剤

複数の種類の原料を混ぜ、
打錠機で押しつぶして製造

会社概要 – 数字で見るダイト

売上高

468 億円

2010年の上場以来、
実質14期連続増収※を継続



創業

1942 年 6 月

2010年東京証券取引所 第2部上場
(2011年同1部、2022年プライム市場)



年間生産錠数

約 32 億錠
(2024年5月期実績値)

(日本人一人当たり、およそ年間26錠)



原薬:製剤の売上比

46:53

(その他 0.4%)



従業員数

1,070 名

(平均臨時雇用者数 38名 外数)
(連結、2024年5月31現在)



ジェネリック医薬品の
供給による医療費削減効果

552 億円
(2023年5月期出荷数量ベース)

増え続ける社会保障費の削減に寄与



原薬等登録原簿(マスターファイル)
(MF)登録件数

103 件
化学品では日本一の件数

(2023年5月現在。子会社、
グループ会社の登録件数を含む。)



信頼性保証部門 人員数

214 人

ダイト総従業員数(単体)の約24%にあたる
(2024年6月1日現在、単体、臨時雇用者数を含む)



MR数

0 人

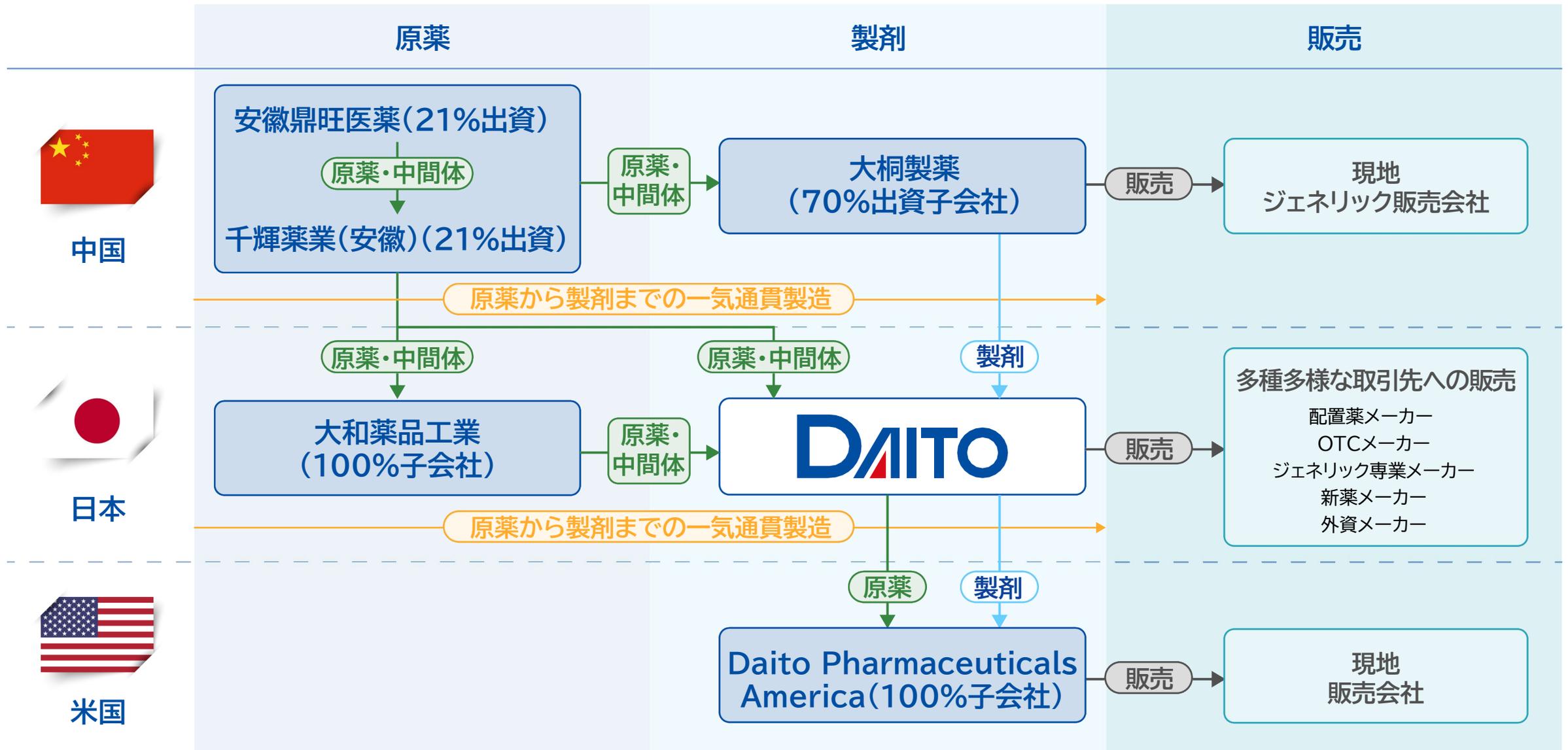
製造に経営資源を集中
医療機関に医薬品の情報を提供し、
販売する医薬営業担当者(MR)の在籍数は0人



低分子医薬品に関わるバリューチェーンと当社の事業領域



当社グループ企業関連図



Ⅱ. ダイトの強みと成長の軌跡

当社創設以来の売上高推移

事業変遷における主要なターニングポイント

- A** 原薬卸業部門を開設し、原薬の販売を開始
- B** 医療用医薬品（ジェネリック医薬品）の製造を開始
- C** 原薬の製造を開始
- D** ダイト株式会社（現社名）に商号を変更
- E** 医療用医薬品の受託製造を本格的に開始
- F** 東京証券取引所市場第二部に上場
- G** 東京証券取引所市場第一部に指定替え
- H** 東京証券取引所プライム市場へ移行



連結売上高
451 億円

■ 売上高 ■ 連結売上高 (単位: 億円)

強み1 - 原薬から製剤まで

OUR ADVANTAGE

「原薬から製剤の一気通貫生産」
が可能な体制のもと、国内外の医
薬品メーカーと幅広く取引を行っ
ております。

DAITO BUSINESS MODEL OUR ADVANTAGE



強み1 - 原薬から製剤まで

「原薬から製剤まで」を同一会社、グループ会社で、
均等に近い比率で手掛けている会社は他にない

内服固形剤（錠剤、顆粒剤、カプセル剤など）では、
原薬の特性（粒度分布、結晶形など）が製剤の薬効（溶出性）に
密接に関係する

- ダイトは両分野の深い知見を社内に有するため、
ワンストップで原薬や製剤のスペックを調整可能
- トラブル時にも両分野の知見を活用
- 互いの顧客を紹介することによる営業活動の効率化も

日本のみならず、
中国においても同様の体制を確立（強み2）

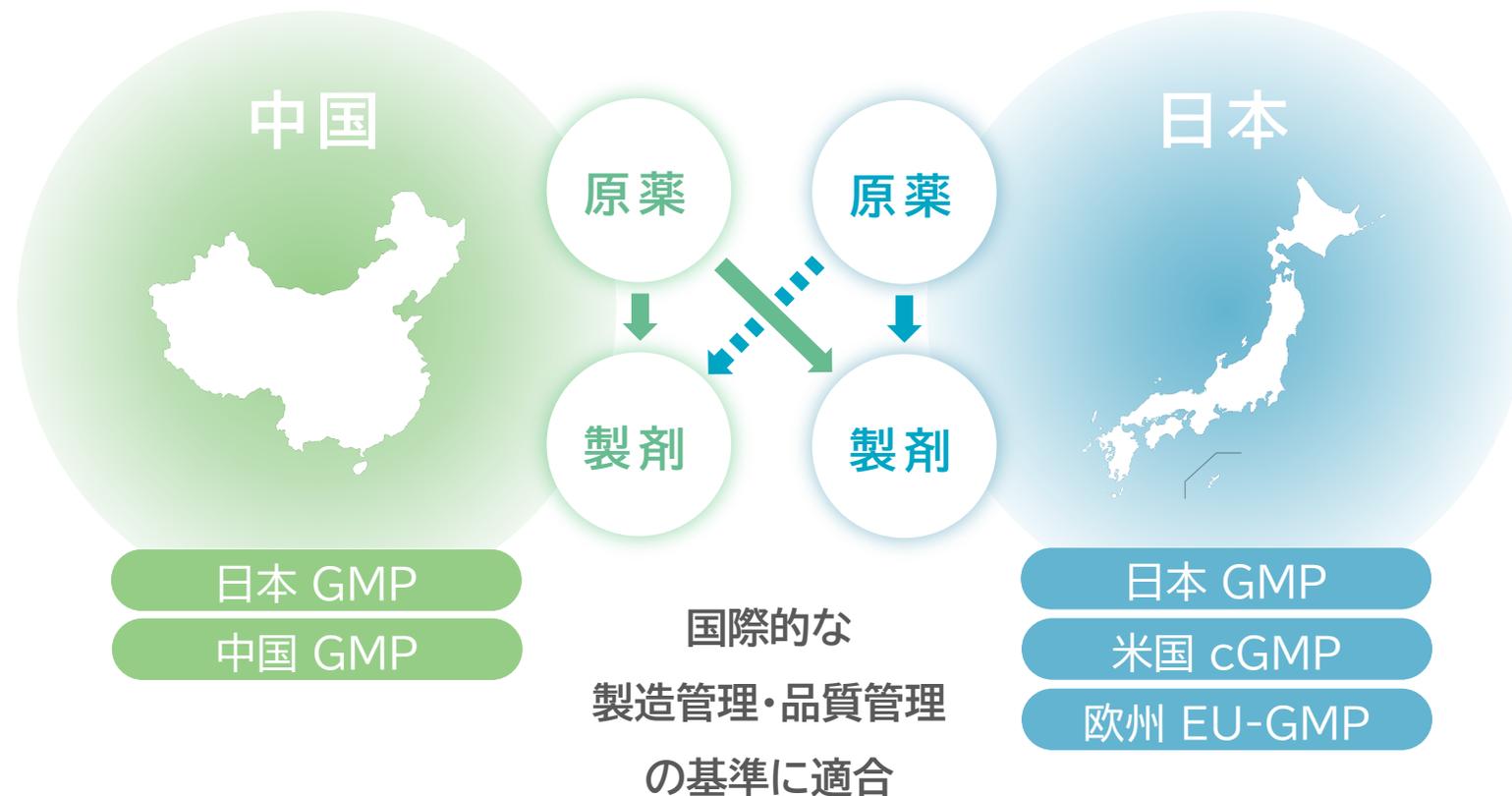


強み2 - 日中連携

OUR ADVANTAGE

世界最大の原薬生産・原薬輸出国である中国においても「**原薬から製剤の一気通貫生産**」体制を敷いており、この「**日中連携**」は当社の大きな強みとなっている

ONE Daito



強み2 - 日中連携

当社の中国事業における 取り組み

当社は日本における医薬品の安定供給体制を強化すべく、世界最大の原薬生産国で、世界全体の約4分の1の原薬輸出額を占めると言われる中国にて、2010年から「原薬～製剤」の事業基盤の確立に注力



**日本品質・中国コスト、強力な原薬の安定供給体制など、
他社が追随できない「独自資源」を保有**

強み3 - 業界トップクラスの品質保証体制

- 業界トップクラスの品質保証体制
- 高度な品質保証体制に裏付けられた高い安定供給力
- 継続した「クオリティカルチャーの醸成」への取り組み
- 現場からトップまで風通しの良い文化

クオリティカルチャーの醸成

品質保証体制を支える当社の文化

「異なる原料の混入」を確実に防止する仕組み

経営陣の品質に対する管理監督
／お取引先との連絡体制

当社グループの製造管理
品質管理の強化(一元化)

国際的な製造管理・品質管理の基準の導入

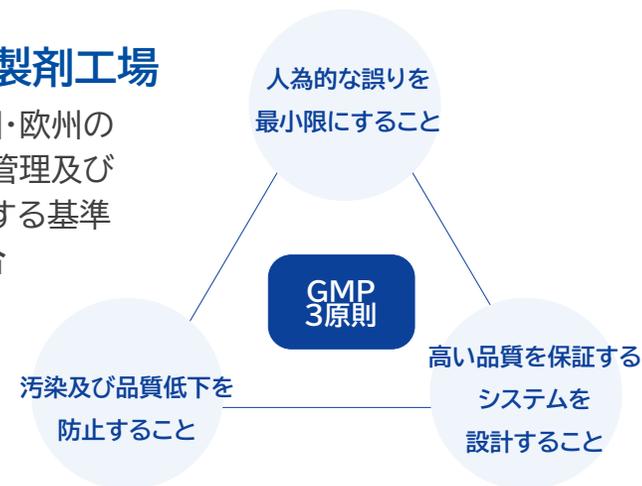
故意による不正や不注意による
誤りを防止する仕組み

国際的な製造管理/品質管理の基準の導入

品質保証体制を支える当社の文化

原薬工場、製剤工場

日本国内・米国・欧州の
医薬品の製造管理及び
品質管理に関する基準
(GMP)に適合



※GMP(Good Manufacturing Practice): 医薬品製造者に求められる製造管理・品質管理基準

強み3 - 業界トップクラスの品質保証体制

世界で最も厳しいと言われるFDA(米国食品医薬品局)の査察を過去30年以上にわたり継続的にクリア
国内でFDA認証を取得している医薬品製造(開発)受託企業は数少ない



FDAの定期査察による品質の研鑽

FDA査察の過去実績

1989/02	1990/02	1995/01
1997/08	2006/04	2008/02
2011/09	2013/10	2017/11
2020/01	2022/09	2023/12

計12回に亘るFDA査察対応を
重ね培った強固な品質体制

3つの強みとジェネリック医薬品市場の拡大により、上場後14期連続増収を達成

3つの 強み

原薬から製剤までの
一貫製造

中国コスト・
日本品質を実現する
日中連携

FDA(米国食品医薬品局)
査察にも対応する
業界
トップクラスの
品質保証体制

政府方針によるジェネリック市場拡大
骨太方針2017を受け、ジェネリック数量
シェアは80%超へ急拡大
当社のジェネリック関連売上は約75%

ジェネリック医薬品市場
拡大の追い風を、
積極的な投資によって捉え、
連続成長を果たしてきた

持続的な成長を支えてきた積極投資

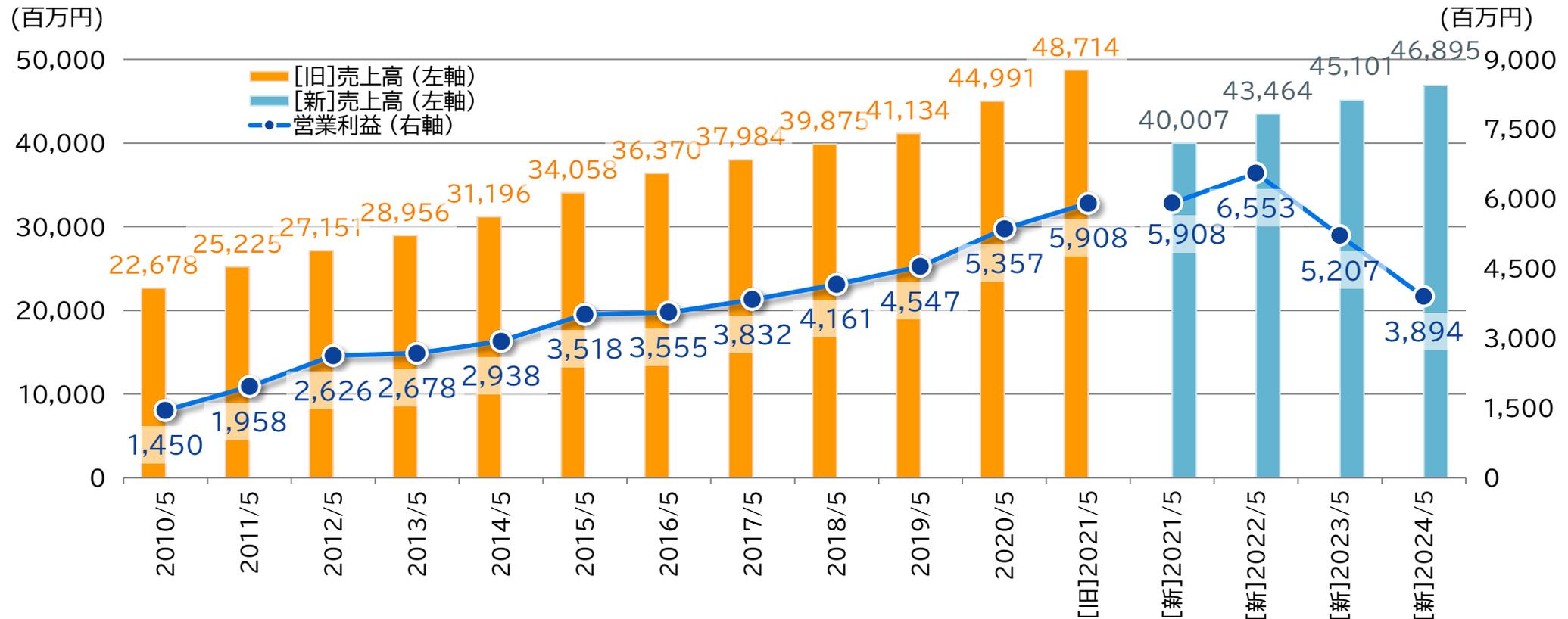
	第八製剤棟	第七原薬棟	第十製剤棟	総合研究センター
投資額	約55億円	約39億円	約67億円	約26億円
建物概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鉄骨造 3階建て ■ 建築面積 約1,515m² ■ 延べ床面積 約3,301m² 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鉄骨造 5階建て ■ 建築面積 約500m² ■ 延べ床面積 約2,432m² 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鉄骨造 6階建て ■ 建築面積 約2,878m² ■ 延べ床面積 約10,111m² 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 鉄骨造 4階建て ■ 建築面積 約1,142m² ■ 延べ床面積 約4,418m²
用途	医薬品製剤製造 (高薬理活性製剤)	医薬品原薬製造	医薬品製剤製造、 医薬品原薬製剤 原材料等の保管	研究開発
竣工	1ライン：2018年11月 2ライン：2020年12月	2022年5月	2023年12月	2024年3月
商用生産	1ライン：2020年3月 2ライン：2022年5月	2023年1月	2024年8月	—
				

歴史的な円安水準の継続や毎年薬価改定等により足許は減益基調

- 上場以来、実質14期連続で増収を達成
- 一方で、足元は円安の常態化や品質基準の厳格化、毎年薬価改定等で減益基調に
- このトレンドを早期に打破すべく、新社長の下で新しい中期経営計画の実行へ

(連結ベース)

(百万円)



Ⅲ. 新中期経営計画「DTP2027」

新中計のコンセプト

シン・ダイト の確立

「芯」を定めて「真」に取り組み、
品質と安定供給での「信」頼と「信」用を高める既存ビジネスと
「新」領域に参入し、「進」化と「伸」長を求める新規ビジネス

DTP2027

Daito Transformation Plan 2027

中期経営計画の名称には「我々は変わらなければならない」
という思いを込め、Transformation「変革」の名を冠しました

既存ビジネスの立て直し

新規ビジネス

既存ビジネス

当社の経営を取り巻く環境認識

- ### 政策及び規制面
- 毎年薬価改定などの薬剤費抑制策
 - 安定供給体制に対する評価
 - 少量多品種生産是正方針
 - ニトロソアミン類対応を始めとする要求品質基準の高まり



業界動向

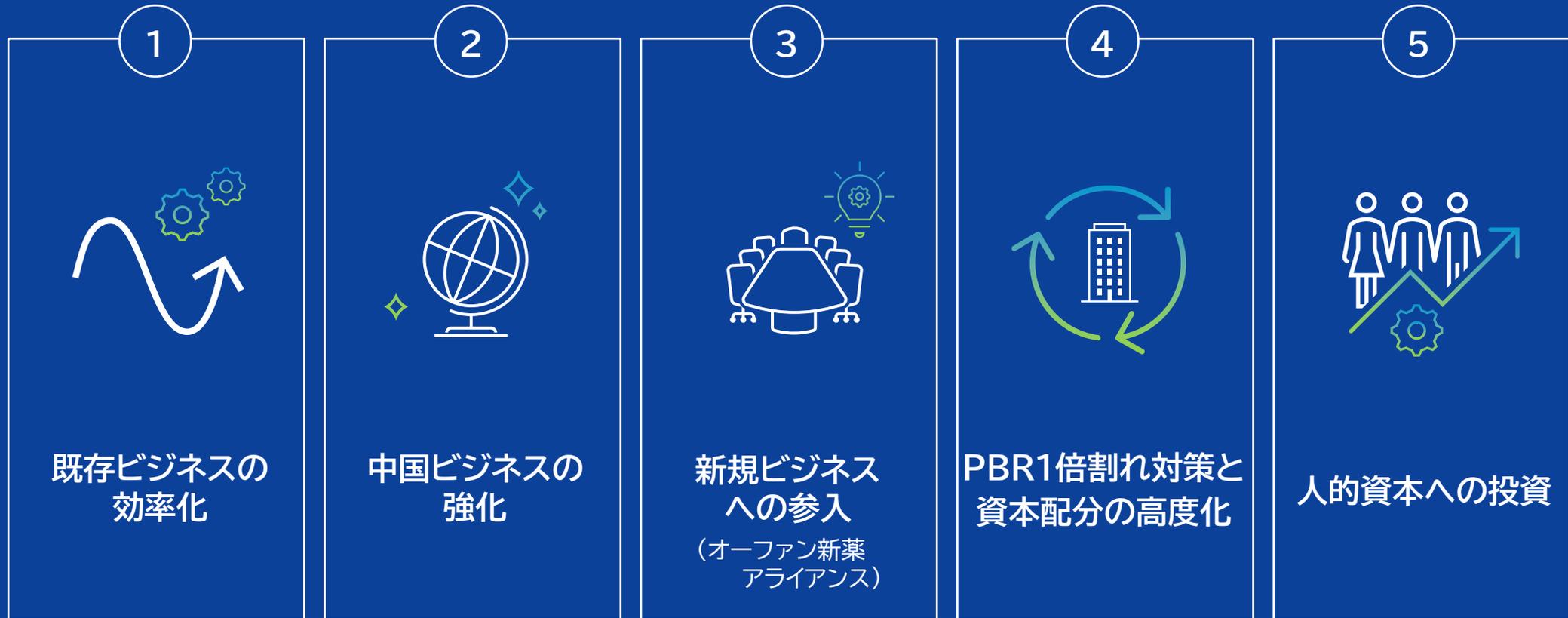
- ジェネリック供給不安問題
- 安定供給への評価の高まり
- 合従連衡の幕開け
- 新薬兼業や外資のジェネリックビジネス縮小・撤退
- 中国・インド産等輸入原薬との激しい競合

金融資本市場

- 資本コストを意識した経営への転換
- 円安による、原材料費高騰
- 建築費高騰
- 金利の上昇

ダイト事業戦略 5つの柱

ダイト事業戦略 | 5つの柱



新中計「DTP2027」におけるKGI (Key Goal Indicator)

新中計「DTP2027」におけるKGIの直近実績と目標

		2024/5期 実績	2027/5期 目標
成長性	売上高	46,895	57,000
収益性	EBITDA(EBITDAマージン)	7,553(16.1%)	11,000(19.3%)
	一気通貫比率	44.7% ^{※1}	60% ^{※2}
効率性	CCC ^{※3}	268日	220日
資本生産性	ROIC ^{※4}	4.7%	6.5%
	ROE	6.4%	8.0%
株主還元	DOE ^{※5}	1.79%	2%以上
	為替	147.8円	150円

※1：[グループ内原薬を使用している成分数] / [自社製造または自社製販ジェネリック製剤品目 成分数]

※4：(税引後営業利益+持分法投資損益) / (期首期末平均有利子負債+期首期末平均株主資本)

※2：[開発中の自社製造または自社製販ジェネリック品目のうちグループ内原薬を使っている成分数] / [開発中の自社製造または自社製販ジェネリック製剤品目 成分数]

※3：債権流動化影響を除いた資金化日数

※5：配当金総額 / 期末株主資本

① 既存ビジネスの効率化

既存製品の見直し

直面する課題

- 多種多様な製品とビジネスモデルで利益構造の把握が複雑化
- 各部署において応急的に増員が続く状況
- 高付加価値な製品を入れようにも会社全体として余裕が無い
- 建築費の高騰により生産キャパ拡大の為の工場投資のハードルが上昇

DTP2027における主な取り組み

- 社長直轄で「ポートフォリオマネジメント部」(以下「PM部」)を新設し、「選択と集中」を推進
- 空いたスペースに高付加価値製品を入れ、利益率の向上を目指す
- 配置薬ビジネスの見直し

製品軸

先発品(原薬・製剤)、
ジェネリック(原薬・製剤)、
OTC、配置薬、
健康食品

ビジネスモデル軸

自社開発、共同開発、
CDMO(開発・製造受託)、
製造委託、販売会社への
資本参画

DAITO

顧客軸

新薬専業、ジェネリック兼業、
ジェネリック専業、OTC、
配置薬、医薬品卸、
大手調剤薬局グループ

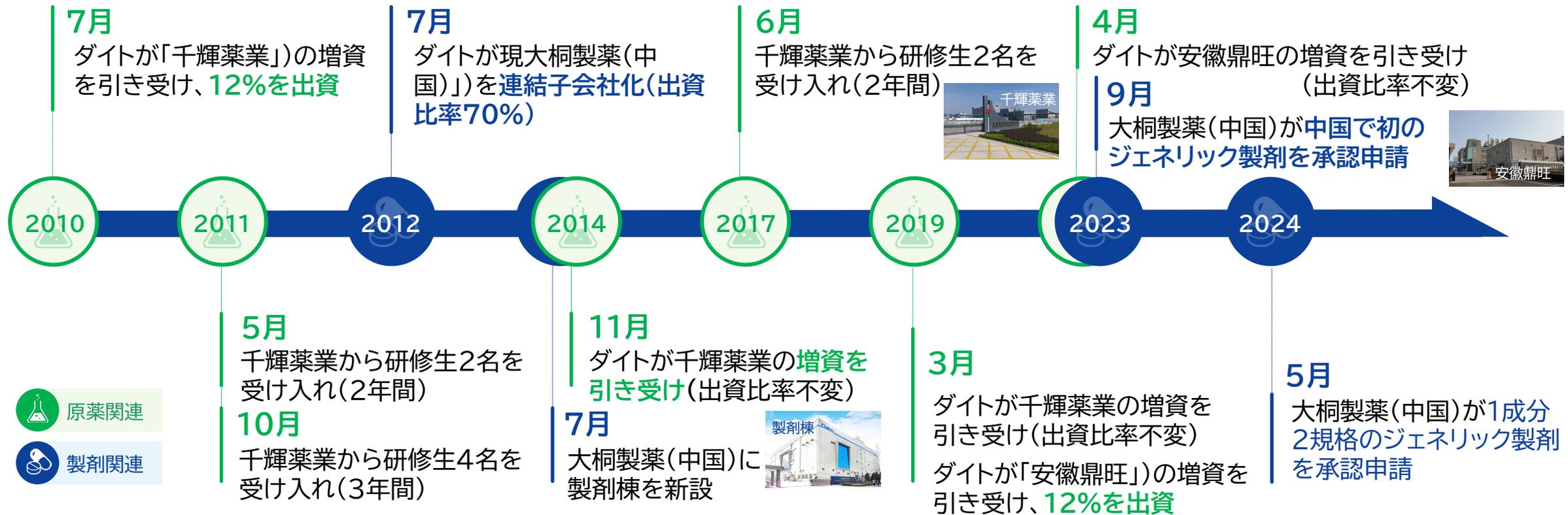
地域軸

日本、中国、米国、
ASEAN、欧州、中東

② 中国ビジネスの強化

中国におけるこれまでの取り組み

当社は日本における医薬品の安定供給体制を強化すべく、世界最大の原薬生産国で、世界全体の約4分の1の原薬輸出額を占めると言われる中国にて、2010年から「原薬～製剤」の事業基盤の確立に注力



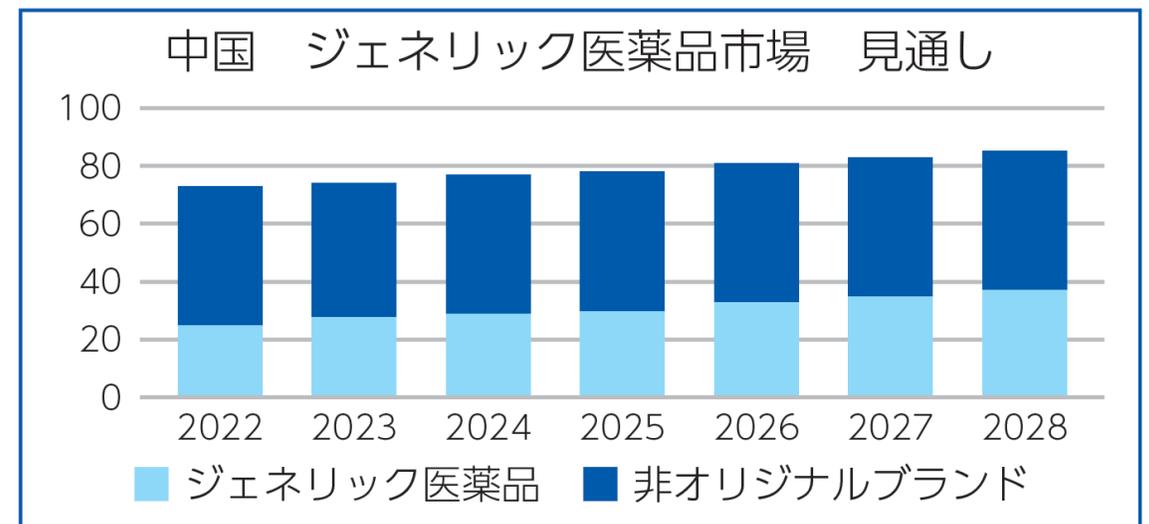
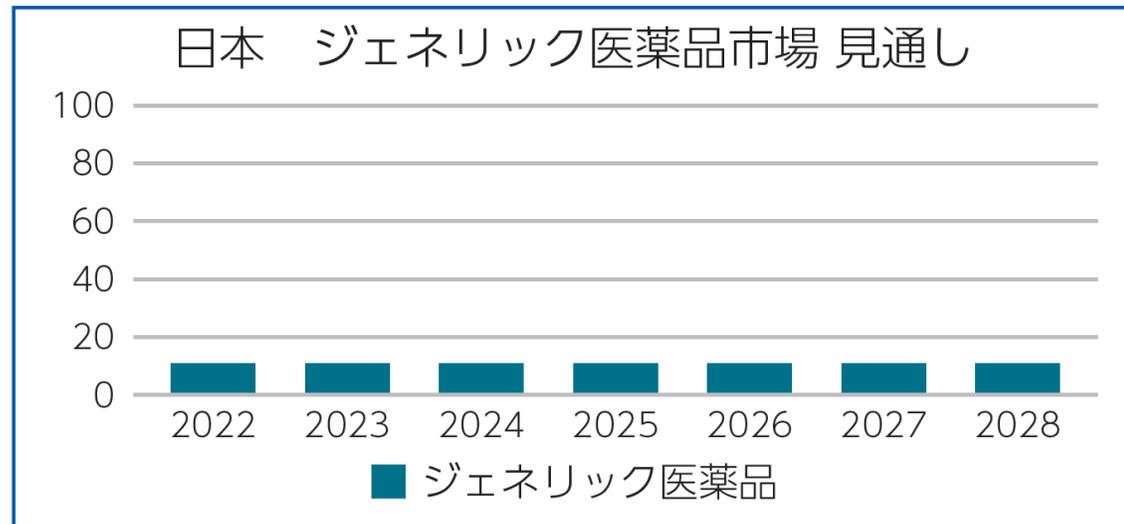
② 中国ビジネスの強化

中国ジェネリック業界の概況整理

市場規模と
中期的な成長性

- 日本と比べ、巨大かつ成長性のある中国市場
- 日本の医薬品市場は23年から28年にかけてほぼゼロ成長
- 中国の医薬品市場は21%増の1,970億ドル(約30兆円)まで拡大見込み

医薬品支出額 単位 10億USドル



(出所)IQVIA社 Global Use of Medicines 2024 p31, p38 掲載図に基づき当社にて作成

② 中国ビジネスの強化

中国ジェネリック業界の概況整理

2015年以降の規制改革と品質基準の厳格化

1. 中国国務院が2015年8月に発表した通達とともに、中国の薬事制度改革が幕開け
2. BE試験等を再実施したジェネリック薬にのみ承認を再付与(これにより後発医薬品企業の数が急減)
3. 2017年、中国は「医薬品規制調和国際会議」(通称ICH)に加入し、規制面での予見性が向上
4. 2021年、国家発展改革委員会が原薬の品質向上プロジェクトを公表、「品質」が競争力を左右する時代に

当社の中国原薬関連企業2社(千輝薬業、鼎旺医薬)は、設立当初より日本の製薬会社や日本当局の査察を何度もクリアしており、中国内の競合他社と比べた優位性が顕在化

② 中国ビジネスの強化

Ⅰ DTP2027における中国ビジネス戦略



原薬 | 千輝薬業及び鼎旺医薬との資本業務提携の強化

- ダイトから両社への出資比率を21%まで引き上げるとともに、両社の株主である二幸商事株式会社が当社株式を30万株市場から取得し、**新たな戦略的業務提携**を締結することで合意
- 今後はダイトの「原薬～製剤の一気通貫比率の上昇」の全社戦略にも合わせる形で、日本と中国の両市場での上市を見据えた、より**Win-Winな共同開発スキームの構築**を目指す計画



製剤 | 大桐製薬(中国)における承認取得と発売開始、これに伴う設備増強

- 2023年9月、1成分2規格のジェネリック医薬品を中国当局に承認申請し、間もなく承認見込み
- 販売委託先の候補選定も終わっており、DTP2027の初年度には当社初となる同国内での自社開発品の発売を開始する予定
- その他、2024年5月に1成分を承認申請済
- 製造受託 11品目についても協議が進行中
- これらの品目生産のために、DTP2027では大桐製薬(中国)の既存建屋内の空きスペースに生産設備を活用した生産能力増強を予定
- 将来的な新規製剤工場の建設も視野に

② 中国ビジネスの強化

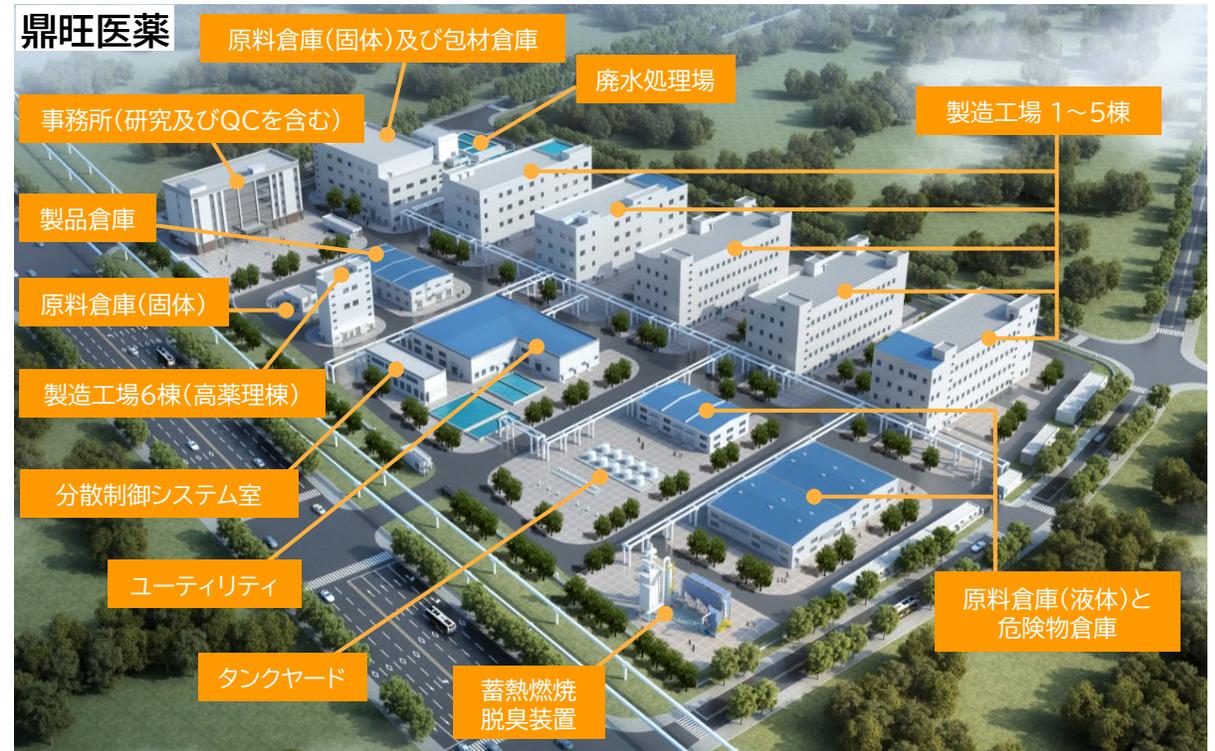
千輝薬業と鼎旺医薬のご紹介

千輝薬業



所在地 安徽省合肥市経済開発区湯口路2066号
董事長 大野 徳輝
設立 2006年10月
社員数 210名 (R&D:20名、QA:10名、QC:28名、製造:126名他)

鼎旺医薬



所在地 安徽省安慶市高新技术開発区
董事長 大野 徳輝
設立 2017年3月
社員数 248名(R&D:5名、QA:8名、QC:22名、製造:189名他)

③ 新規ビジネスへの参入

| オーフアンドラッグCDMOビジネスのアライアンス

	ジェネリック	オーファンドラッグ
対象疾患	生活習慣病や鎮痛薬などが多い	患者が5万人未満で、難病など
開発成功率	◎ 高い	△ ジェネリックに比べれば低いが、一般新薬よりは高い
開発費	◎ ～数億円	○ 数億円～数十億円(パートナー企業との共同支出)
売上規模・安定度	× 発売時にピークを過ぎていることが多く、 通例、毎年薬価改定により急速に下落	◎ 競合が少なく、薬価ダウンしづらい。 制度として10年間の独占期間
薬価	× 先発医薬品の50%未満	◎ 新薬として高薬価が期待
ターゲット市場	○ 原則として日本国内のみ	◎ 日米欧 (+中国等の新興国)
市場成長	× 今後は頭打ち	◎ 右肩上がりでの成長が期待
生産(設備)	△ 大量販売を前提	○ ジェネリックほどは小さくなく、大規模設備が不要

③ 新規ビジネスへの参入

| オーフアンドラッグCDMOビジネスのアライアンス

ダイトの原薬～製剤の開発技術、製造能力、FDA基準の品質管理能力を活かし、オーファンドラッグを開発する新薬メーカーの「(原薬・)製剤研究所」と「工場」の役割を果たす



原薬～製剤のワンストップソリューション

30年以上に亘るFDA対応実績

製剤開発・製造にリソースを特化

オーファンドラッグ領域での化合物の探索・発見

臨床開発の戦略策定・推進と承認申請

研究開発や販売に特化

具体的な事例

ノーベルファーマ株式会社との提携 (2024年6月18日プレス)

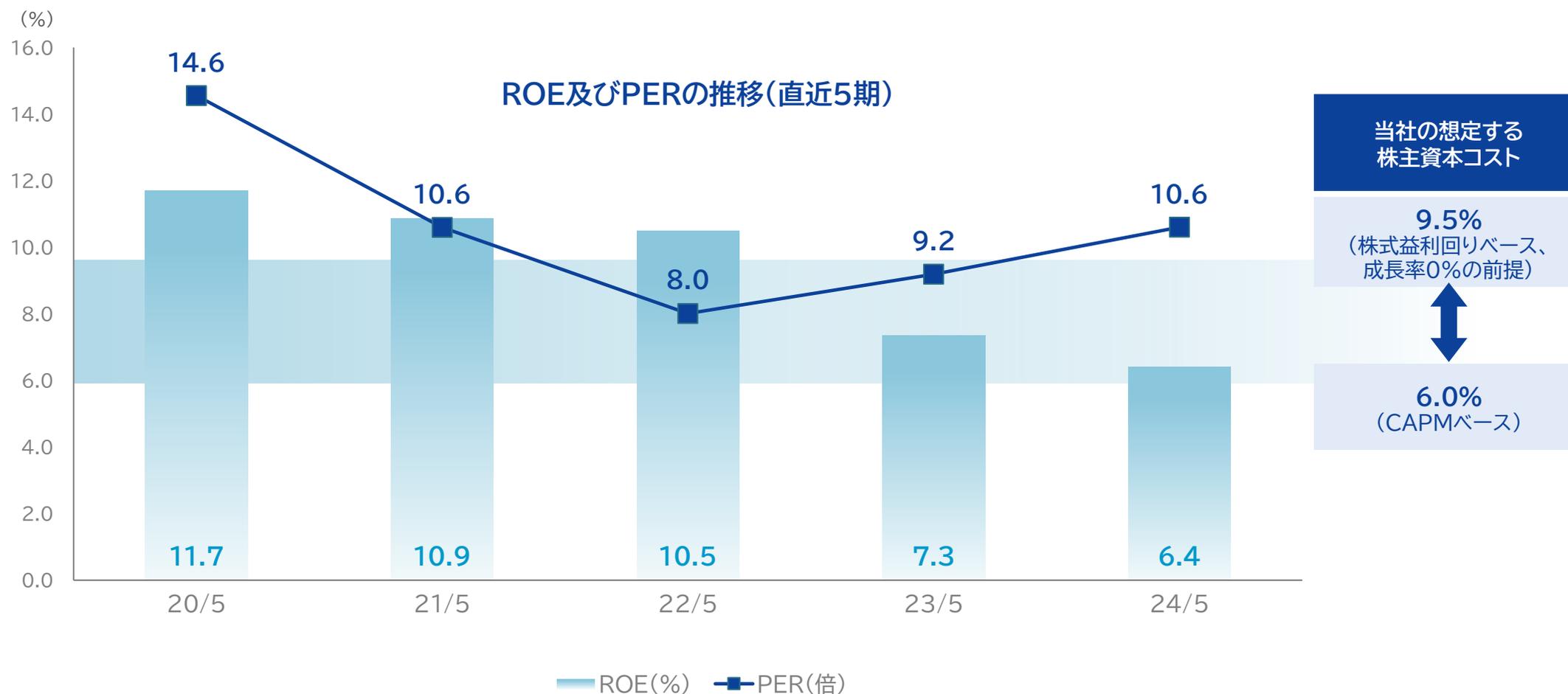
- オーフアンドラッグの開発で国内トップクラスの実績を誇るノーベルファーマ株式会社との「パートナー関係構築に向けた協定」を締結
- ノーベルファーマ株式会社と当社は、補完関係にある両社の強みを持ち寄り、オーファンドラッグビジネスを推進



ノーベルファーマ社との調印式(2024年6月18日)

④ PBR1倍割れ対策と資本配分の高度化

資本コストを意識した財務・IR戦略の強化



注: ROE算出に関し、株主資本は期首期末平均値を、利益は当期純利益を採用

④ PBR1倍割れ対策と資本配分の高度化

資本コストを意識した財務・IR戦略の強化

DTP2027における主な取り組み

- 社長直轄でCFO(最高財務責任者)を配置、財務とIRを強化
- 併せて資本コストを意識した経営のための組織改編



機動的な自己株式の取得と消却

- 2024年4月12日に決議し、市場から取得した自己株式の消却を7月12日に決定
- 今後も株価の推移を見ながら、機動的に自己株式取得を通じた株主還元が行える体制を整備

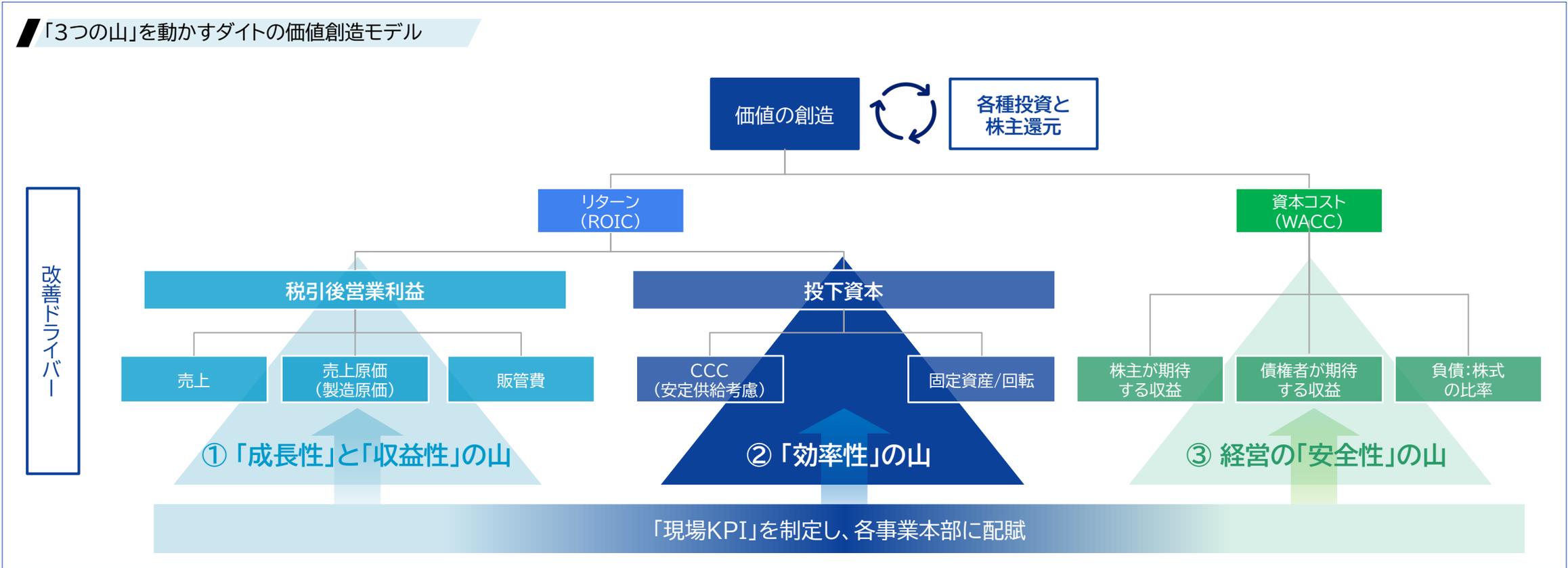
注: ROE算出に関し、株主資本は期首期末平均値を、利益は当期純利益を採用

④ PBR1倍割れ対策と資本配分の高度化

資本コストを意識した財務・IR戦略の強化

資本生産性指標としてROICとROEの導入を決定

- ROICとWACCを3つの山から成る「改善ドライバー」にブレイクダウンし、各事業本部に対してより改善ドライバーに直結する「現場KPI」を配賦。執行役員会にてKPIを管理し、日々の業務を「価値の創造」に繋げる。



④ PBR1倍割れ対策と資本配分の高度化

資本配分の最適化による事業基盤の強化

直面する課題

生産能力増強のための設備投資の難易度上昇
 - 2000年比で、**建設コストが240%近くまで上昇**

「あり方検討会」での報告書内容も含めた業界再編機運の高まり

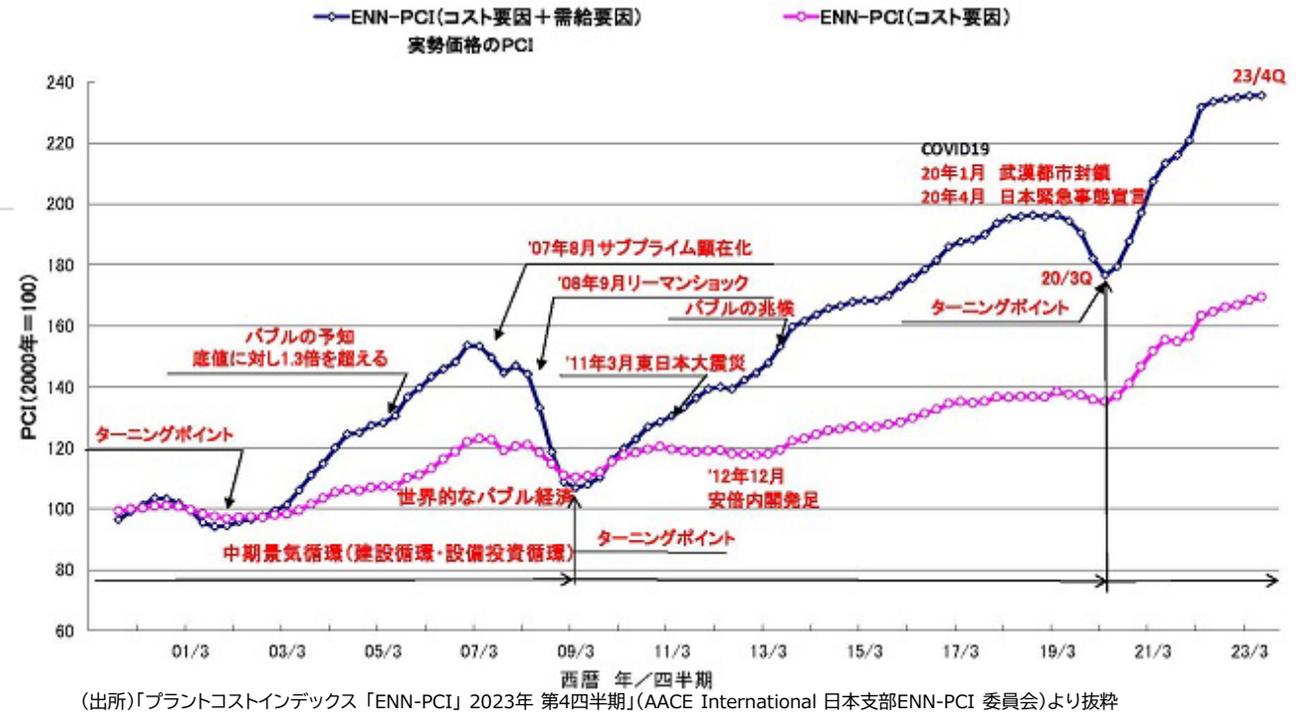
DTP2027における主な取り組み

経営企画部内にBusiness Development(事業開発)機能を新設

- 生産能力増強のための工場建設を軸としたオーガニック戦略から、**インオーガニック成長**を視野に入れた体制へのシフト

成長の見込みにくい事業の抜本的な見直し

- 需要の減少が続く配置薬関連ビジネスや苦戦の続く健康食品ビジネスについては、経営資源配分のあり方を再検討



⑤ 人的資本への投資

人的資本への投資

	直面する課題	DTP2027における主な取り組み
1	富山県内の人口減少と採用の競争激化	<ul style="list-style-type: none"> ● 柔軟な働き方を可能とするITインフラの整備と非効率業務の廃止 ● キャリアパスプログラムの導入と強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ ジョブローテーション ・ 社内公募制度、セコンドメント制度
2	デジタル化の遅れと非効率業務の存置	<ul style="list-style-type: none"> ● 主要ポジションの次世代を担う後継者育成計画の強化 ● ダイバーシティプログラムの強化 ● エンゲージメントサーベイの実施(結果をKPIとして定点観測)
3	「富山から日本、世界へ」の マインドセット不足	<ul style="list-style-type: none"> ● 海外拠点への派遣(海外拠点からの受け入れ)を通じたグローバルマインドの醸成 ● 重要な社内プロジェクトへの積極的な若手の登用

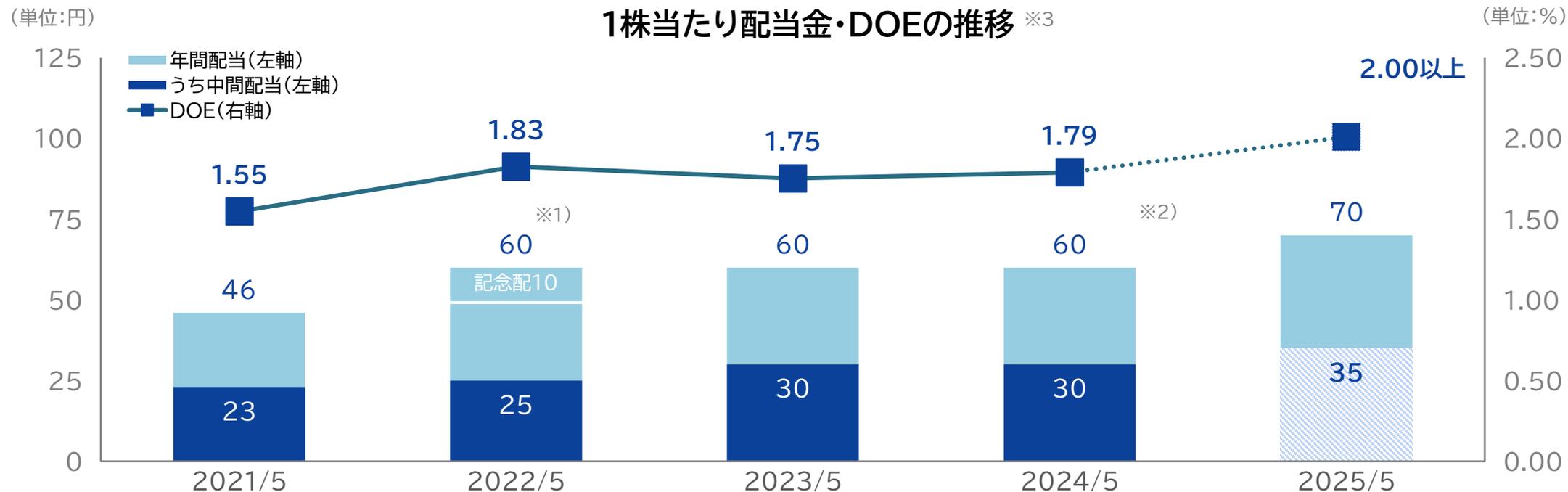
株主還元政策

■ 配当方針

- ・ 事業価値の持続的増大と、それによる株主の皆様への利益還元を経営上の重要課題として位置づけ
- ・ 2025年5月期からは「DOE2%以上」を新たにKGIに採用。安定的な配当を実施する方針

■ 自己株式の取得

- ・ 2024年5月期には計11億円の自己株式の取得を実施
- ・ 今後も株価推移を見ながら、機動的な自己株式の取得を行える体制を整備



※1) 2022年5月期の配当金60円には記念配当10円を含む。

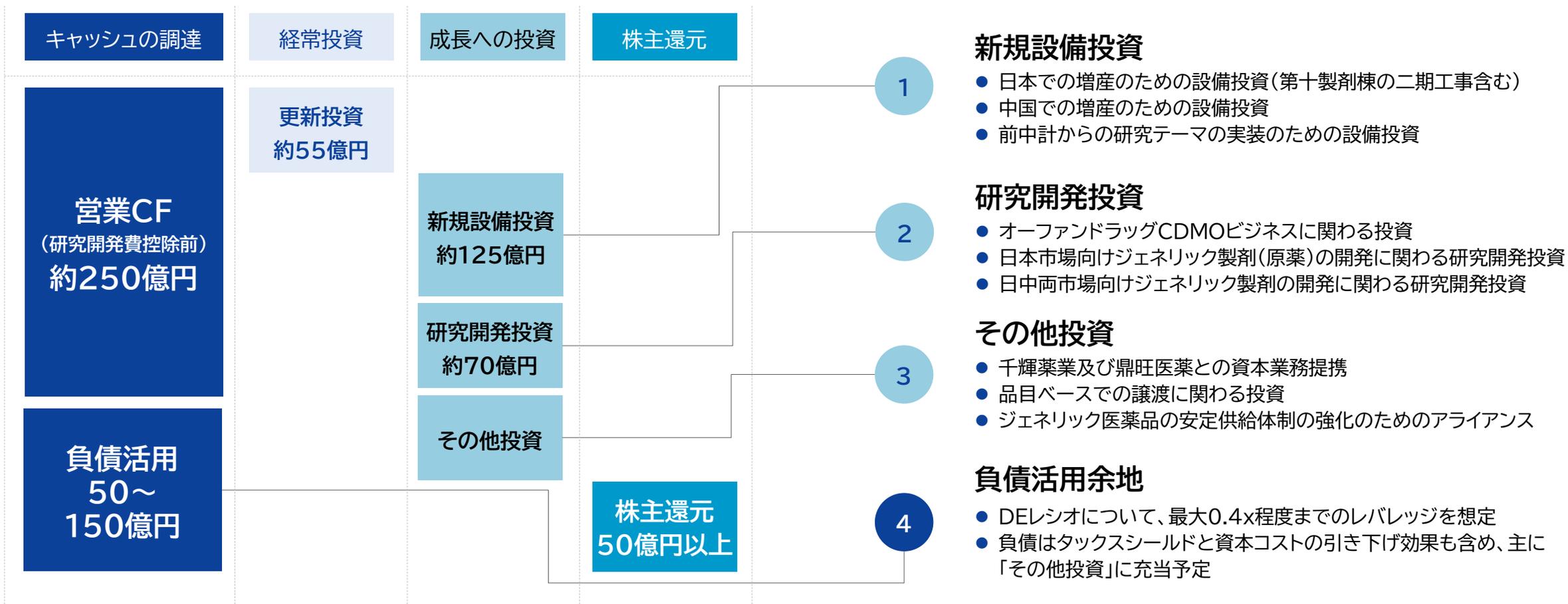
※2) 2023年9月1日付の株式分割後につきましても60円/年の配当を予定しております。

※3) DOE算出に関し、配当金総額及び期末株主資本を採用

資本配分方針

■ キャッシュアロケーション概要

- 高品質な医薬品の安定供給体制の維持と持続的な成長に必要な投資を確保しつつ、安定的且つ積極的な株主還元を実施



ESGへの取り組み

環境保全への対応

気候変動への対応

- 省エネルギー・GHG排出量削減の取り組み実施(太陽光パネルの設置など)
- Scope3排出量の算定(ダイト単体)
- 今後のGHG排出量削減策の検討・TCFD提言に沿ったシナリオ分析(潜在的な財務影響の定量的な評価)

水資源に関する 管理活動の推進

[カテゴリー1:取水量の削減]

- 地下水取水量の集計精度向上(実測集計対象範囲の拡大)
- 取水量削減策の実施・計画(地下水の循環利用)

[カテゴリー2:排水水質管理]

- 水質規制違反件数:0件
- 水質管理の取り組み実施

従業員の就労環境の向上

従業員の能力開発・就業環境の向上

- 人事制度の再構築の完了
- 階層別研修の新体系の構築完了
- 職種別研修の推進
- 研修・OJT教育の実施
- ワーク・ライフ・バランスの向上ダイバーシティの推進
- 育児・介護休職制度の利用者数:17名
- 女性管理職比率:14.0%
- 健康診断受診率:99.2%

労働基準の遵守

- 一人当たり残業時間の減少率:2.1%
- 有給休暇平均取得日数:11.3日/年
- ハラスメント防止研修:各100%

労働基準の遵守

- ダイトグループCSR方針での「人権の尊重」の表明(継続)
- 「人権の尊重に関する方針」の策定完了(和文・英文)

コーポレートガバナンスの充実

グループ ガバナンスの充実

- ダイト(株)のガバナンス強化
- 取締役会の実効性評価結果:実効性維持
- 改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応
- リスクマネジメントの推進
- コンプライアンスの推進(コンプライアンス研修の継続実施)
- 大和薬品、大桐製薬のガバナンス強化
- 取締役会(毎月)へのダイト取締役の出席
- 内部監査の実施(リスク管理、コンプライアンスを中心に):実施完了

腐敗防止

- 「企業活動と医療機関等の関係の透明性に関する指針」の遵守(医療機関等に対する 資金提供内容の公開)(継続)
- 「腐敗(贈収賄)防止指針」の策定完了
- 「腐敗(贈収賄)防止ガイドライン」の策定完了

各数値の基準は2023年5月期

IV. FY2024 決算詳細、FY2025 業績予想

2024年5月期 決算ハイライト

- 売上高は原薬部門が好調に推移し、前年比 +17.9億円、+4.0% と堅調に推移
- 利益面では、主に為替の影響による原材料の高騰に加え、研究開発費増加により、経常利益△12.4億円、△24.1% と厳しい状況で推移

(単位:百万円、%)

	2023/5期	2024/5期	前期比増減
	金額	金額	%
売上高	45,101	46,895	+4.0
営業利益	5,207	3,894	△ 25.2
経常利益	5,169	3,923	△ 24.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,600	3,295	△ 8.5
EPS (円)	227.63	210.00	△ 7.7
配当金(円/株)	60.00	60.00	—
研究開発費	1,865	2,349	+25.9
減価償却費	3,870	3,659	△ 5.5
設備投資額	7,024	9,951	+41.7

* 研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

2025年5月期 業績予想

- 毎年薬価改定の影響による製品販売単価の下落により、引き続き厳しい状況を予想
- コスト面では、主に円安を要因とした原材料価格の上昇による原材料費の増加、電気料金の値上げ等による水道光熱費の増加、生産体制及び品質保証体制強化のための人件費の増加、生産設備拡充による減価償却費の増加等により大幅なコスト増加を見込む

(単位:百万円、%)

	2024/5期	2025/5期 予想	前期比増減
	金額	金額	%
売上高	46,895	49,000	+4.5
営業利益	3,894	3,500	△ 10.1
経常利益	3,923	3,500	△ 10.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,295	2,300	△ 30.2
EPS (円)	210.00	150.39	—
配当金(円/株)	60.00	70.00	—
研究開発費*	2,349	2,400	—
減価償却費	3,659	4,300	—
設備投資額	9,953	6,700	—

* 研究開発費には、開発部門の減価償却費、及び当該部門の人件費の変動を含む。

成長の背景 -ジェネリック市場の拡大と今後の市場展望

内閣府「骨太方針2017」において2020年9月までに、ジェネリック数量シェア80%達成を目標設定

達成済

- 今後はこれまでのような急激な伸びは期待できず
- ただし、下記施策により、ジェネリック市場は今しばらく伸び続ける見込み

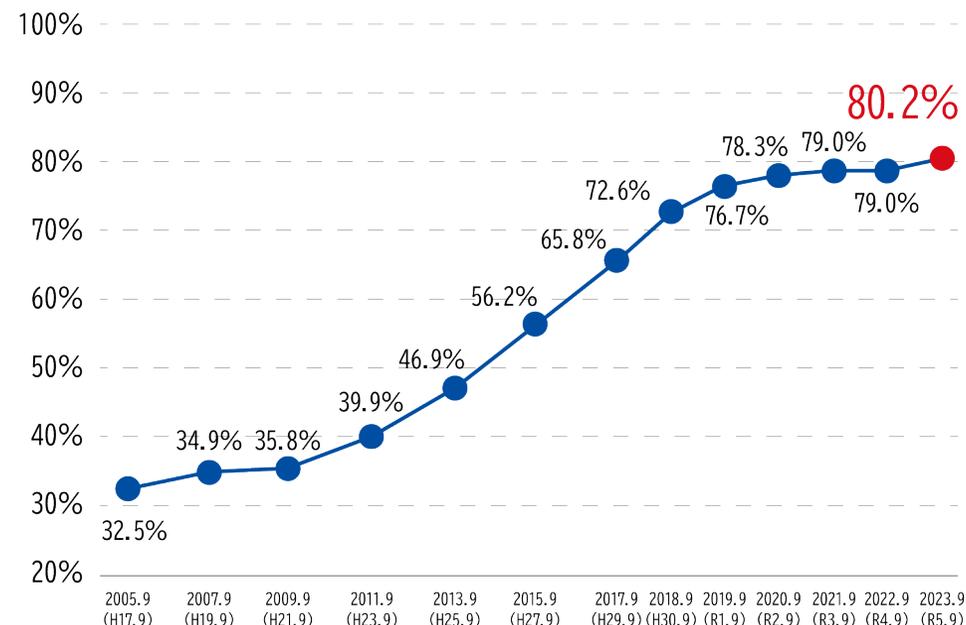
2024年春、下記の政府目標が決定

- ジェネリック数量シェアを2029年度末までに全ての都道府県で80%以上
- (数量のみならず)金額シェアを65%とするサブ目標

具体的施策例

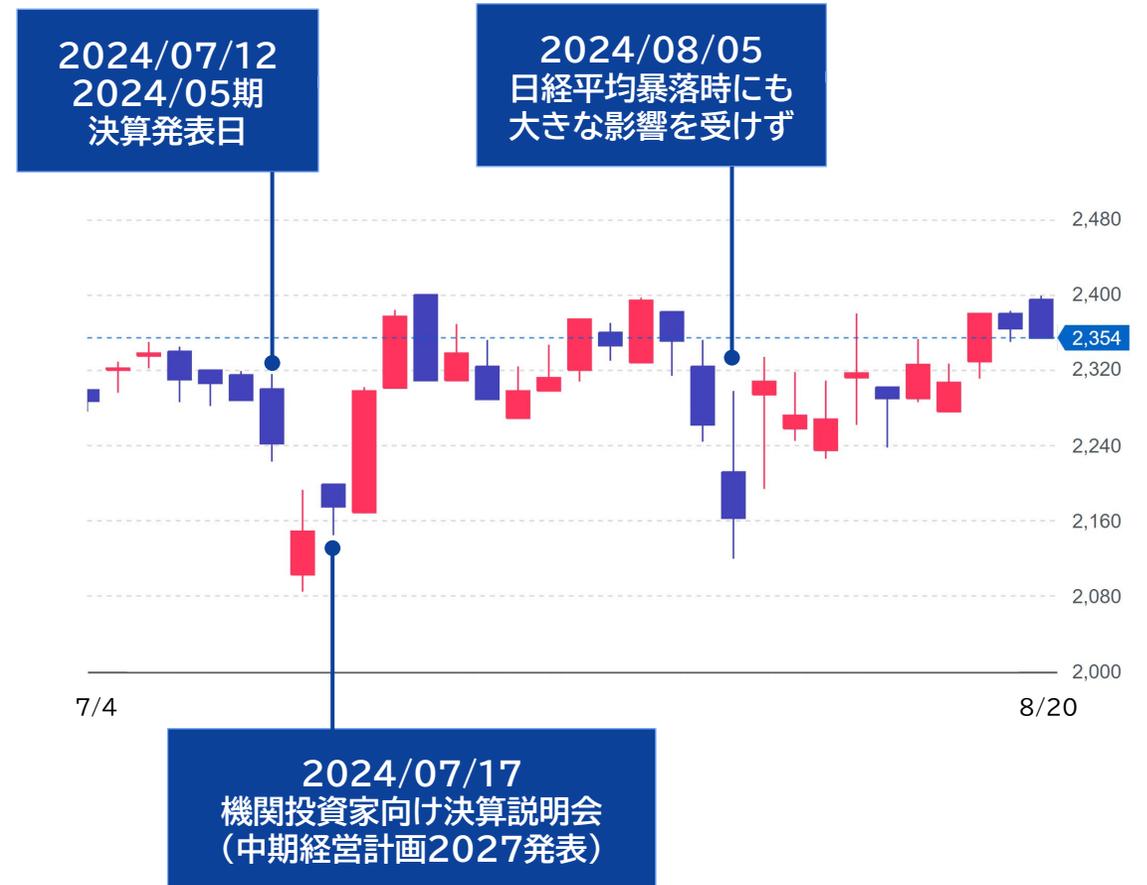
- 2024年10月より、長期収載品と、ジェネリックとの差額の1/4を患者負担に(選定療養制度)

薬価調査における後発医薬品の使用割合 (数量ベースの推移)



令和6年3月14日 厚生労働省資料 後発医薬品に係る新目標について より引用

株価推移



この資料は投資家の皆様の参考に資するため、ダイト株式会社（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、説明会開催日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資を行う際は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



原薬から製剤まで 医薬品のダイト

ダイト株式会社 経営企画部

TEL : 076-421-8755

Appendix. その他参考資料

新任代表取締役社長、取締役、CFOのご紹介

代表取締役社長

まつもり ひろし
松森 浩士

生年月日 1956年7月24日



略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況:

1982年4月 台糖ファイザー株式会社(現 ファイザー株式会社) 入社
1996年12月 同社 研究開発本部臨床開発統括部 臨床開発部長
(感染症系薬担当)
2000年5月 同社 開発薬事統括部 統括部長 参事
2008年9月 ファイザー株式会社 執行役員 経営企画統括部長
2009年3月 同社 執行役員 コーポレートアフェアーズ・信頼性保証門長
兼 総括製造販売責任者
2009年12月 同社 取締役執行役員 エスタブリッシュ医薬品事業部門長
2013年4月 同社 取締役執行役員 エスタブリッシュ医薬品事業アジア
パシフィック地域戦略担当 バイスプレジデント
2013年12月 SBIバイオテック株式会社 代表取締役社長
2016年4月 テバ製薬株式会社(同年10月武田テバファーマ株式会社に
社名変更) CEO兼社長
2021年10月 武田テバファーマ株式会社 代表取締役社長兼CEO
2023年7月 当社 入社
2023年8月 当社 取締役副社長 経営戦略担当 兼 管理本部長
2024年1月 当社 代表取締役副社長 経営戦略担当 兼 管理本部長
2024年8月 当社 代表取締役社長 就任予定

取締役

いしだ とおる
石田 徹

生年月日 1960年12月14日



略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況:

1985年4月 武田薬品工業株式会社 入社
2008年4月 同社 製薬本部 CMC研究センター 製薬研究所 所長
2010年4月 同社 製薬本部 生産管理部部長
2012年4月 同社 製薬本部 製薬企画部部長
2013年7月 同社 製薬本部光工場長
2015年4月 同社 グローバル製薬サプライ・日本・アジア
光工場 工場長
2018年4月 武田ヘルスケア株式会社(現 アリナミンファーマ
テック株式会社) 代表取締役社長
2022年11月 当社 入社
2023年9月 当社 執行役員生産本部副本部長
2024年1月 当社 執行役員生産本部長 兼 環境安全室長
2024年6月 当社 執行役員生産本部長 兼 製剤製造部長
兼 環境安全室長(現任)
2024年8月 当社 取締役 就任予定

最高財務責任者(CFO)

おおつが けんじ
大津賀 健史

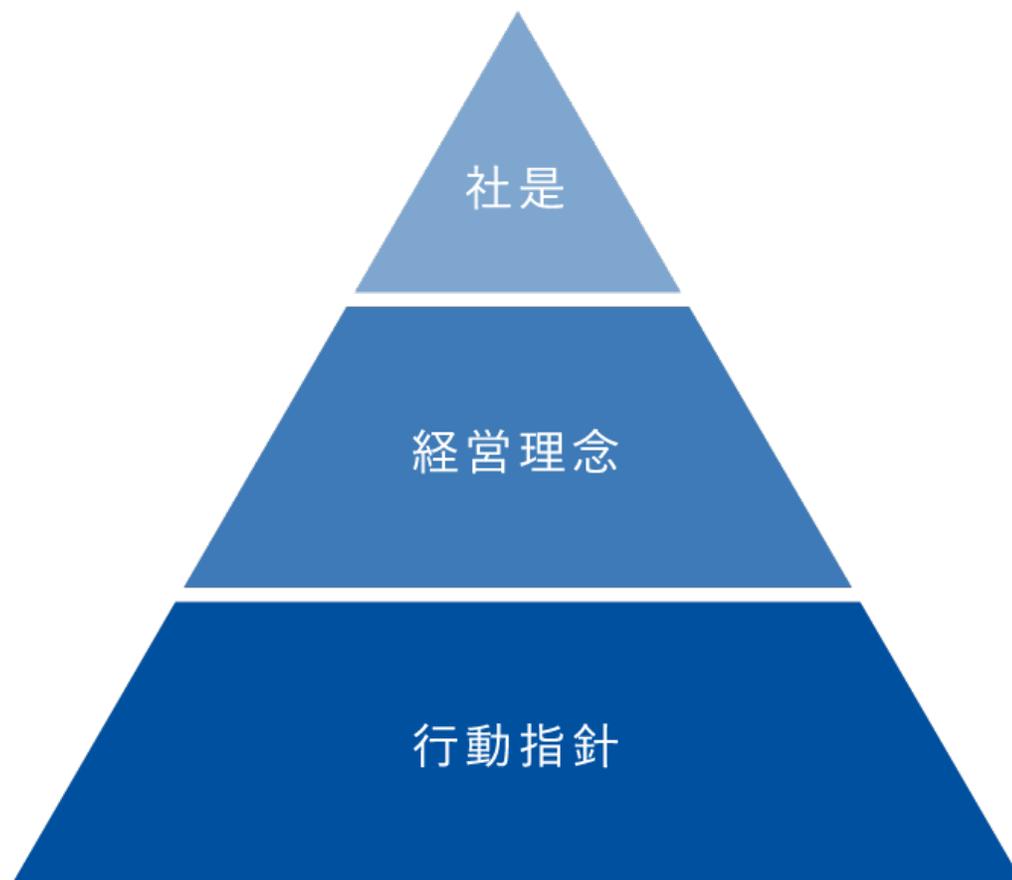
生年月日 1988年11月5日



略歴、地位および担当ならびに重要な兼職の状況:

2012年3月 慶應義塾大学薬学部薬科学科 卒業
2012年4月 株式会社三菱東京UFJ銀行(現株式会社三菱UFJ
銀行) 入行
2012年10月 同行 営業第一本部営業第四部
2016年4月 米国MUFG Union Bank, N.A.(現MUFG Bank,
Ltd.)
アジアコーポレートバンキング(現米国法人営業部)
2017年7月 米国CFA協会認定証券アナリスト 取得
2023年5月 米国ハーバード大学経営大学院修士号 取得
2023年7月 大和薬品工業株式会社(当社100%子会社) 入社
2024年1月 同社 執行役員社長付経営企画担当
当社 顧問
2024年8月 当社 最高財務責任者(CFO) 就任予定

社是・経営理念・行動指針



社是

創造 闘志 誠実

- 一、アイデアをもち考える人間
- 一、実行力と根性のある人間
- 一、自分は企業を守る人間

経営理念

社員が「楽しい会社、楽しい仕事」を実感できる働きやすい職場を作り、健康な社会作りに貢献し、選ばれ続ける企業を目指します。

- 「楽しい会社」とは
社員自らの成長と会社の成長が連動し、いきいきと楽しく仕事ができる会社
- 「楽しい仕事」とは
病を治したい患者さんや健康を求めらるお客様に役立つように、社会に対して製品を供給する喜びを味わえる仕事

社是・経営理念・行動指針

行動指針

経営理念のもと、選ばれ続ける企業を目指します。

- **誠実な姿勢**
法令を遵守し、公正、公平に活動します
- **みなさまからの信頼**
更なる品質の向上とお客さまへの確実な供給を行います
- **社会への貢献**
日々の活動を通し、みなさまを支えます
- **環境との調和**
環境に配慮し、地球とともに歩みます
- **更なる挑戦**
新たな分野、新たな技術へ挑戦します
- **世界への飛躍**
世界を舞台として優れた医薬品を提供します

DAITO

ダイト株式会社

当社は、人々の健やかな生活と、成長を目指し、高品質な医薬品の安定供給に努め、日々邁進しています。

Next Phase

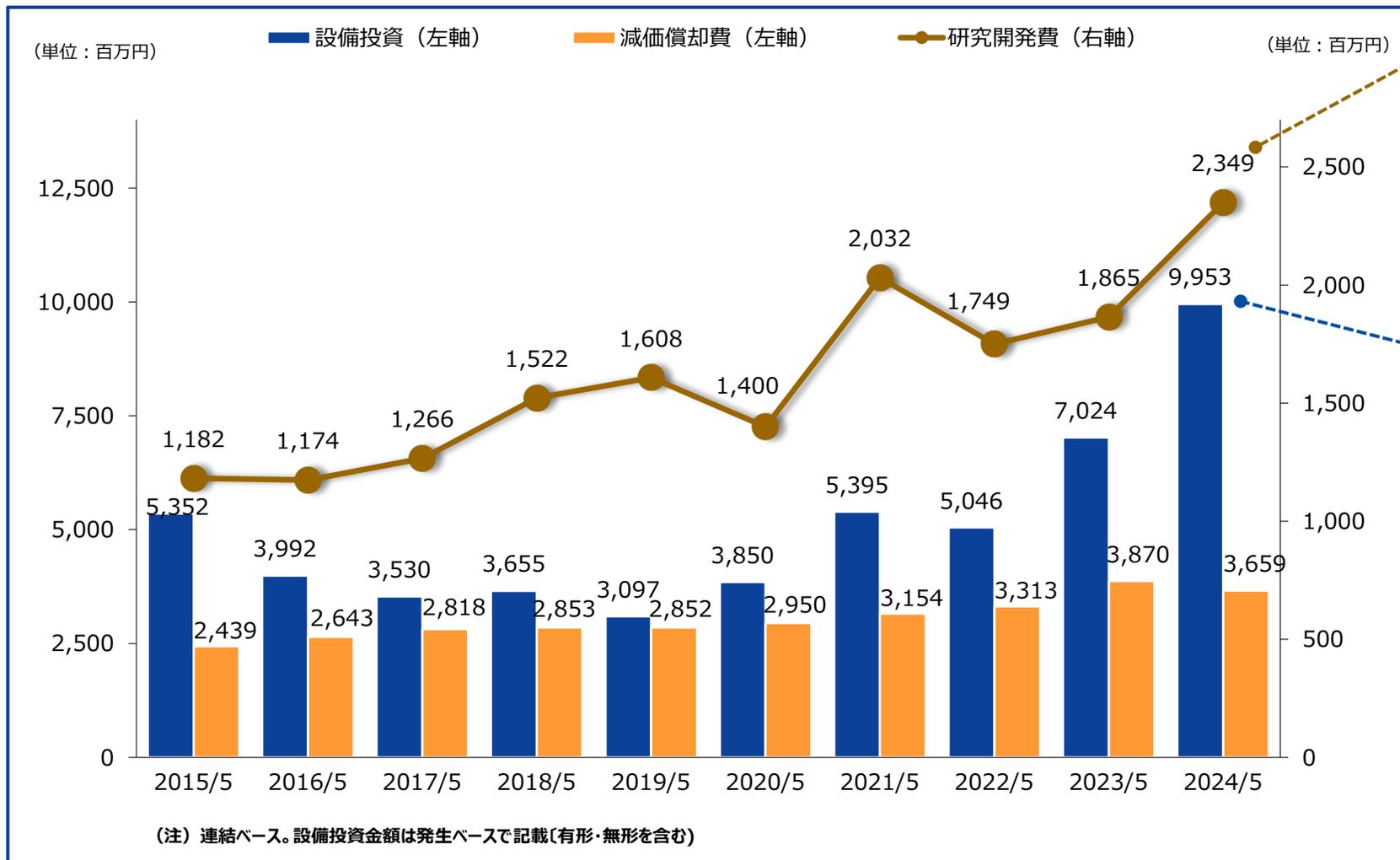
選ばれ続ける企業へ

みなさまからの信頼、サポートに感謝し、ずっと選ばれ続ける企業を目指します。



持続的な成長を支えてきた積極投資

設備投資・減価償却費・研究開発費推移



研究開発費は、要求される品質水準の上昇や、近年増加している高薬理品目・OD錠・配合剤品目の開発費が高額であることから漸増傾向

政府目標によるGEの数量拡大、GMP違反に端を発する医薬品不足への対応のため、近年は積極的な投資を実施
これらの目的での新工場建設は第十製剤棟で一段落